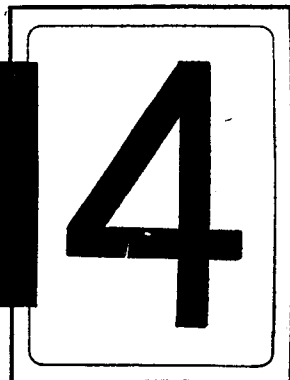


會 報



1958

舞 台 照 明 家 協 會

— 目次 —

舞台照明家協会の
会員であること……………小川昇(1)

舞台照明設備寸考
今後の劇場に対する要望

篠木佐夫、小川昇、相馬清恒

……………(8)

舞台照明昔ばなし・(座談会)

……………(2)

海外ニュース

米国の野外劇場とその照明設備

……………大庭 三郎(6)

声……………(11)

聴交室……………(12)

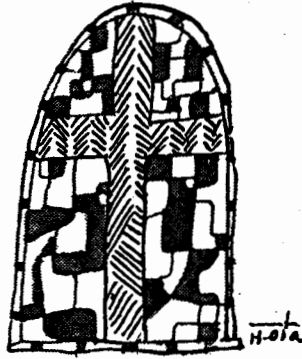
事務局通信……………(10)

会員ニュース・消息欄……………(12)

★ ★ ★ ★

カット……………太田 弘道

報 会



才 4 号

舞台照明家協会の会員であること

小 川 昇

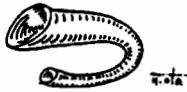
私達の協会は、同一職域内にある色々の会や、或る特定の日には一緒に休むことの出来る人達の集りのように、簡単に全会員が集ることの出来ない会である。これは会員の性質上止むを得ないことであつて、半数以上の会員が一堂に会するようなことは殆んど不可能に近い。そこに私達の会の企画の難しさがあるのである。例えば、研究会を催して誰かの話を聞くとか、何処かを見学するとか、そんな催しを企画しても、総会などの参加人員にかんがみて、果して何人参加出来るだろうかと思えることが企画の積極性を鈍らせるのではないだろうか。総会の場合に、出席出来るのに出席しない人は無いと思ふ。時間も相当考慮されたのだがやはり差し支えの多かつたことは誠に残念であつた。

そこで私は考えるのである。舞台照明の勉強は必ずしも皆が集らなければ出来ないことではない。勤めを持つて居る人でも、自分だけなら時間を作ること出来よう。幸に何処の劇場へ行つても会員が居るから見学の便も与えられるだろうし、自分で分らないことがあつたら会員の中で此れと思ふ人に尋ねることも出来る。そして勉強の結果や見学の感想などを会報に発表するようにならば、自分だけでなく、会員全部の為に大いに役立つことだと思ふ。

会報の編集や其の他会の仕事に多くの時間と労力を捧げて下さる方々には全く感謝の他はない。私達はその方々にすべてを任せていたのではすまないと思ふ。私達が自分自身の為に勉強することが私達の協会の発展させることになるのであるから、私達は大いに協会を利用して勉強したいものである。そして私達会員は、自分で勉強しようと思えばいくらでもその機会や便宜を得ることが出来るのだ。

舞台照明昔ばなし

(第三回)



出
席
者

遠藤為春
丸茂富次郎
和田精

久保田万太郎

穴沢喜美男

石川鶴市

上野虎雄

小川昇

上条甲午

篠木保山

神遠前

田二郎

昭和33年2月11日

一 於 鉢巻岡田 一

(五十音順)



タンホイザーと間接照明

遠山 また話は飛びますけれども、震災前で芸術運動、新劇運動が盛んだつたころ、舞台で一番芸術的な仕事をしたのは「タンホイザー」だ。照明演出で和田君がやつて大へんなものをこしらえた。

篠木 山田耕作さんの話にもときどき出て、あのときはこんなふうで大へんだつたとよく聞きますが、和田さんから「タイホイザー」の話の一つ。

和田 帝劇の舞台で完全に間接照明をやつたのはあの頃初めてです。セツトはみんな傾斜です。裏へ山を作つてしまつた。三十度ぐらいの傾斜で奥まで、舞臺端から丸もの木を七本ぐらい並べて立てた。あれは齊藤和男という芸術学校の図案課の課長だつた。その小屋場の上からプロフラムが降りて来て夕映えの歌を歌う。エリザベートがアリアを一つ歌つて、そのあとへプロフラムが歌つて、

そのときに宵の明星が一つ出る。それが全部間接照明ですから……。

篠木 間接照明というのは、どういふやり方です。

和田 逆光線で立木の影をまつすぐに傾斜面に出すわけですよ。まつすぐに出す必要上、間接照明を使って光源を一つにした。夕陽の影が出てそれがだんだん消えてしまつと宵の明星が出て、二つ三つ星が出る。巡礼がそこから上つて向うへ行く。巡礼が無限に出る。ゆつくりコーラスを歌いながら登り切ると、奈落へ駈け降りて回つてくる。

篠木 同じ人が何べんも何べんも舞臺へ出てくるんですか。

和田 五十人ぐらい学生を使つた。そのコーラスの指揮が近衛秀麿でした。まあその間接照明がスポイラルなんですから。

篠木 漸新で今までの照明設備を除外して、新しい設備を用い出したんですか。

和田 これは秀さんに大へん叱られたんですが、全幕この方法で通してくれというので無理にお願ひしてやつてもらつた。

神保 反射面に色をつけて、それで色を出した。

篠木 大きなガンドウみたいなのを逆にむけて……。五本作つたんですか。

和田 かたつむりの殻の切断面みたい

大正9年12月28日

なものを……全部回り反射で……。

丸茂 苦勞したものですね。

和田 これの計算を今の関君が……。

遠山 とにかく大きいんだよ。直径が一米ぐらいいるんだ。ボーダー代りにつちやつたんだ。

榎木 そういうことをしなければだめだつたんですか。

遠山 だめとも云えないけれども……。

榎木 帝劇の当時だからいろいろなことができそうなの……。

和田 ドイツの本を見て間接照明はいつということ言われていた。

榎木 帝劇の「タンホイザー」は大正九年でしたわ、今から考えれば大胆な目的のために新しい手段を選んでやつたのでしよう。今でもそれに近いことをやろうという考えは、みんなありますね。

和田 ああいう能率の悪いことは……。

榎木 能率は悪いけれども、一応そういう考えをもつて現代的に直して……。

和田 なぜ「タンホイザー」のあかりを引受けたかという、当時譜面を見て照明をコントロールしなければならんと考えた。

上条 電気屋さんでそんな人はいなかつた。和田さんが譜面を見てあかりを調節するということは……。

遠山 和田君は学校時代に音楽部に入つた。

小川 インダイレクトの問題ですけれども、間接照明を作るために、昔の有楽座だつたと思えますけれども、ボーダー・ライトの下へ、障子の天井のようなものを作つてインダイレクトにしたことがあるんぢやないの……。

遠山 僕がやつたんだけれども、これを秀さんに小言をくつた。

和田 半間接照明だ。「タンホイザー」は完全な間接照明だ。

遠山 トレイシング・ペーパーで天井を作つて、その上へボーダーをつけた。これは藤蔭会の踊。

榎木 反射面積が大きくなるので、目的はもつとよくなる。

遠山 ボーダーの列がなくなる。上からスパークなんかして火のついたものが落ちたら火事になるというので……小言をくつたものです。

舞台照明という呼称

上条 照明という言葉はいつごろから出た。

和田 そのときに始めて使つた。舞台照明と初めて言つたさうですけれども……。

榎木 照明という言葉の用いられたのは、そのときが初めてですか。

上条 死んだ松井松翁さんが、死ぬまで照明という言葉を使わなかつた。舞台監督と言つて居つた。

遠山 僕、それで喧嘩したことがある。

上条 あの人のために照明もすいぶん進んだ。

遠山 あの人はそういうことを考えた人だから……。

和田 当時照明学会という照明家の集まりがあつて、舞台照明という言葉はそのときに初めて使われたということですよ。

榎木 その前には配光とか……。築地の最初のときによく使つた。

神保 そり、その以前から坪内さんが「配光、配光」と書いてた。

和田 築地はすぐに「照明」にしましたよ。

傾斜舞台

和田 有楽座の舞台が一時斜めになつていましたねあれはいつごろなんですか。大正になつてから……？

上条 私が有楽座に行つた時分に斜めになつていたから……大正七・八年。

和田 なぜあんなに斜めになつていたんですかね。

榎木 英国式なんです。スキヤ橋のカデリーもそうなつてましたよ。

和田 「小栗栖の長兵衛」なんかもみんな斜めだつた。

榎木 英国が占領してあそこでいろいろなことをやつたときに、みんなさういうふうになりました。

遠山 照明と関係ないけれども、舞台の傾斜の問題は起源はテアトロ・オリン

ピニーの劇場から出て、イタリアのオペラ劇場がやつた。背景は平行だからかまわないけれども、ヨーロッパの劇場にこしらえて、それを模倣してやつたら斜面になつた。研究座がそうだつた。横になるものを上下に飾る場合、よほど計算してあわせてやらないとひっくり返つてしまふ。すぐに直しましたが、で二尺ぐら

い上つていました。

神保 十五度ぐらい。

遠山 すいぶんの上り方でした。

新しい歌舞伎座の照明設備

榎木 関東大震災時分の話にだんだん入つていつてもいいのすだけれども、震災を境にして、歌舞伎座、邦楽座、築地小劇場ができた。上野さんは歌舞伎座にはいなかつた？

上野 歌舞伎座が焼けるときは新宮。

榎木 焼ける前の歌舞伎座の形はどういうふうだつたんですか。

上野 歌舞伎座が焼けたんで、新宮の照明設備は歌舞伎座と同じようにやつた。ボーダーでも何でも歌舞伎と同じように直した。

榎木 どういうものだつた。

上野 板でフットを作つて二つになつていて傾斜をつけた。これを作つておいて前へ金網をはつた。ボーダーには金網はつけない。染球だけでも歌舞伎座は単相線だから、片つ方のヒューズが飛ぶと片つ方が明るくなる。そんなことがな

いよりに新宮を直した。歌舞伎座はそれ
があつてしよろがなかつた。染玉の色は
金茶と青と青竹、玉木輝信という装置家
がいて、普通のブルーではいけない。青
竹でないのだめた。

上条 玉木色といつていた。

遠山 青竹の方が感じが良い。ブルー
はじきに赤くなる。

上野 電球の頭のところを茶色にな
る。

藤木 僕もあれはよく染めたものだ
よ。グリーンを染めて夜なんか外を見る
と真つ赤に見える。浅草が火事じやない
かと思つた。金茶と青竹と云つていまし
た。

上野 赤も使つてましたけれども、ポ
ーダー・フットには使わない。

藤木 震災前はせういものを使つて
いて、震災で方々焼けてしまつて、新し
く近代照明の形になつたんですね。

上条 なつたの、歌舞伎座ですよ。そ
のときに丸茂さんが機械を作つてくれ
た。

丸茂 その次は東京電気がクリーゲル
から設計と見積りをとつて、その設計を
基準にしてやつた。

藤木 設計図が出来たんですか。

丸茂 ええそれに準じて歌舞伎座をや
つた。

上野 松竹でスポットを使つたのは歌
舞伎が初めて……

上条 照明器具は松島製作所で作つ

た。ところが大へん重い。スポットが一
人で持てないくらいだつた。

丸茂 ポーダーは東京電気で松島にこ
しらえさせた。みんなエリヤ・ライトで
……馬穴は大へんに重いのがありまし
た。

上条 鉄でちよつと手をけがしてしま
う。

上野 ポーダーのゼラチンというのは
初めてですね。

藤木 歌舞伎座が初めて……

上条 松井松翁の「家康入国」ではそ
れをいくえにもやる、全部ストリップを
出す。

藤木 「武蔵野原」のライトの場面。

上条 それは十二尺の脚立によつても
とどかない。屋根が出てストリップを
つけないればだめなんだ。重いんだから
……

藤木 一番最後の夕焼の空、緋色にな
つていて……

上条 富士を描きまして雲を描き、そ
こへ綱をはつて裏からスポットを当て
る。タンツボを十いくつ並べてやつた。

スポット十何台、重いんだ、どうにもこ
うにもならない。そのとき配電盤のヒュー
ーズが細いから、ちよつと無理させると
みんな飛んでしまう。開場式というのは
ほとんど未完成だからたまらない。

藤木 僕もびつくりしましたよ。変電
所の前にスポットの重たいのがある。階
段昇つてさ。

上条 鉄板のこういりだから(手で
大きさを示す)たまらない。

藤木 タンツボを上げたり下げたりす
るのはたまらない。アンバー色から青い
色。

国産の照明器具

小川 器具の問題ですけれども、大隈
講堂の開場式のときに遠山さんが挨拶を
して、「こへ使つた器具は全部国産品
である」ということを非常に強調した。

そのころまでは照明器具といふものゝ国
産ということが、非常に珍しかつたんぢ
やないかと思ふんだ。帝劇の場合でもス
ポット類……デインマーなどは輸入品が
多かつた。ここでこれが全部国産品であ
るといふことを強調したんですね。

藤山 国産で間に合ふ時代になつたん
ぢやないかと思ふんですがね。あのポー
ダーへ染球じやなくゼラチンを使つた。
ポーダーを設置したのは、僕が扱つたの
で大正十一年の大阪松竹座。コンパード
・メントのポーダーをはじめて入れた。

藤木 抵抗器は水抵抗器でしたわ。
神保 二階のギャラリーのところに、
コンクリートの風呂を作つて……

上条 大阪の道頓堀の松竹座ができた
とき僕はあそこをいた。あそこの電気工
事は非常に乱暴なんだ。

小川 コンパード・メント・ポーダー
になつてはじめてゼラチンを使つたんぢ
やないけれどもその頃は、ゼラチンの入

手ということがあまり簡単でなかつたの
ではないかと思ふんだ。震災後に出来た
邦楽座のポーダーはまだ染球で作られ
た。コンパード・メント・ポーダーが出
来てから日本のゼラチンの製造が進歩し
たのではないかと思ふ。

上条 あの時分ゼラチンはできていた
んぢやないの。

遠山 その当時はゼラチンの入手が不
充分であつたということ、同時に電球
の大きいのは自由に使えなかつたといふ
ことなんだ。みんな小さい電球だつた。

小川 ガス入電球があまり使えなかつ
た。

神保 ゼラチンをアメリカから輸入し
ていた。

小川 照明器具の進歩ということは、
光源の電球の進歩ということに非常に影
響されたんだね。

上条 ガス入りができる染球が使えな
くなつたから、長足の進歩をとげた。

遠山 アメリカでガス入りできたの
が、一九一三年だから、翌年は日本でで
きた。

上条 ガス入りができない前にタンク
ステンとガス入りの中間のものがあるで
しよう。丸形電球、それからガス入りが
できた。少しはもつけれどもビーランブ
みたいにはもたない。

小川 ガス入り電球が非常に進歩して
来たことによつて、急速に照明器具とい
うものが発達して来たんですね。

丸茂 それはアクメ球ですね。それでスポットがかんたんに使えるというわけですね。歌舞伎座の開場ときでもスポットというのはなかつたんですからね。

ライム・ライトから

クセノンランプ

小川 スポットライトはアーク・スポットが非常に早く使われたね。

上条 四十何年ころ使われてた。

丸茂 帝劇の一番初め、スポットライトはライム・ライトを入れたんじゃないですか。

遠山 私は帝劇は見えないんですが、有楽座で小西君がライム、ライムと盛んにいつてました。

丸茂 帝劇へライム・ライトが入つてるといふことは聞いただけで、実物は見ていない。

神保 映写機にライム・ライトを使つていました。

遠山 アセチレンを焼きつけて光らせる。

神保 僕が大阪に行つたときに使つてました。

榎木 結局ガスを使つて、ガスが燃えたわけでしょう。

遠山 ライムの先を白熱にするんだよ丸茂 方解石でしょうね。

遠山 一種の石灰みたいなものだね。丸茂 石灰石、方解石のような純粋の石灰だね。

遠山 一時代飛んで将来の話になりま

すけれども、スポットの光源にイギリスの照明学会の問合せに、クセノン・ランプを使つてるかどうかということがあつた。

丸茂 タングステンのエレクトロードを使つて、その電球の中へクセノンを入れた。

遠山 太陽と同じ、少し青味を帯びる。

丸茂 太陽温度はいろいろなものでござれて赤味を持つ。ほんとうの色は三千百度くらいがちょうどいいんだけども……。クセノンは六千度というんですが、実用にはなりません。立派なスポットになる。

榎木 光源はどういうふう……。点光源のようになるわけですね。

小川 私は五百ワツトのものは実際に点灯して見ました。光源の大きさは四ミリ位。

穴沢 一キロまでできました。一キロだと大きさはどれくらいになります。五百ワツトで一キロの電灯ぐらいです。

穴沢 一キロまでは作れるそうです。

遠山 これが三百時間もたない。

穴沢 千時間もつ。僕はそれをあした見に行くことになつてい。それと同じな

のかどうかわかりませんけれども。小川 私が実験したのは六百時間もつです。

遠山 二百八時間ということがライフに出てい。日本でこしらえてるのは値

段が設備を入れて八万円というんだ。これでバルブだけ取りかえればいいんだけれども使えない。

丸茂 二千時間くらいにはなるようですね。

穴沢 二千時間もつということですよ。丸茂 遠山さんが言われた時間よりも、千時間くらいは伸びたらしいですね。

遠山 まだ実用に使えない。

小川 色温度は高い。色は非常に白く感じませけれども、実際の明るさはどういうふうになるか。

穴沢 放電するわけですね。撮影所なんかでとつて録音する場合は工合が悪い。

和田 テレビでもだめですね。

穴沢 テレビは蛍光灯と同じだから。

和田 明るいことはいけれども。

小川 直流にすればフリツカーの問題は解決出来る筈です。

榎木 望んでも望めないものができる。三百時間になつても五百時間になつても実用にはなりませんよ。始終五百時間つけ放しにするわけではないから。

穴沢 映写機に使うのだから、そういうわけにはいかない。

遠山 映写機にはとてもいいんだけれども。

上条 そりう舞台を明るくする必要はないですね。

丸茂 客の見る距離がきまつてますか

ら、そり明るくする必要はない。小川 では時間の関係もございますし、今日うかがえなかつたことは、またあとでおうかがいすることは致しまして、ひとまづこの座談会を終らせて戴きます。どうも今日は有難うござい



三回に亘つて掲載して参りました座談会へ舞台照明昔ばなしも今回で好評のうちに全部終了いたしました。

この昔ばなしは時代的には漸く大正年代を終つたところですので、続いてその後築地小劇場あたりから現代までを、より歴史的にお話戴いて照明の歴史の様なものとしてまとめたとも思つております。いづれ企画のたち次第お知らせしますが、今回の座談会に大変面白い昔ばなしをお聞かせ下さいました御出席の諸先生方に、誌上から厚く御礼申し上げます。

— 編集部 —

米国の★★★★★★★★★★★★★★ 野外劇場と その照明設備

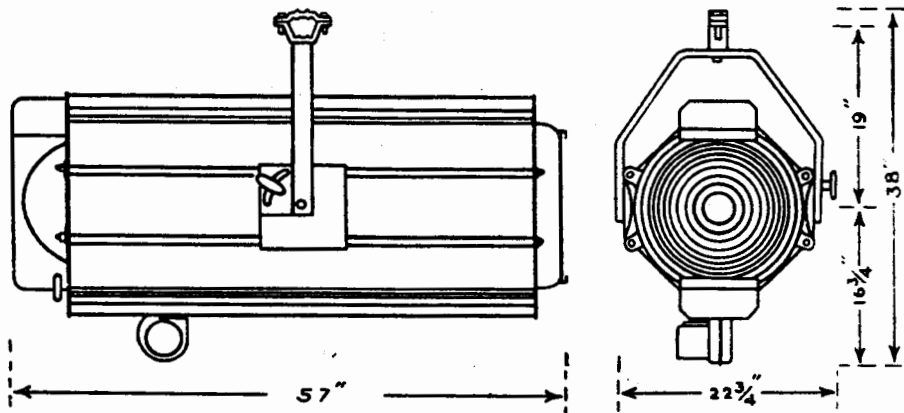
★★★★★★★★★★ 大庭三郎

夏

の野外劇場程気持ちのよいものはない。雨の多い日本では余り発達していないのは残念である。米国の野外劇場とその照明設備について少し記してみよう。

米国では西部のハリウッド地方が春から秋にかけて雨が降らないので、野外劇場としてはうつつの所で、大小の公園や山々を利用して幾つかの野外劇場を持つている。周知のハリウッド・ボウルは、その中でも最も大きく二万人の収容力があり、照明設備は、フロントライトが主力で鉄塔の上に三キロ四〇台が設置されている。又グreek劇場は、三千人の劇場で主にミュージカルものを上演しているが、フロントライトは、二キロ四〇台に、フォロースポットライトの二キロが六台でやつている。(勿論両劇場共ステージサイドにも設備はあるが)。ハリウッド・ボウルの近くにピルグリメージ(聖地)プレー劇場と云うのがある。これは少々他の劇場と違ひ、大きな裏の山々を舞台に入れたスケールの大きなもので、キリスト劇をやるので有名である。山頂から荘嚴な音楽と共に白馬に乗つたキリストが現れると一齊にその白馬に三キロのスポットライトが当り、その後から松明を持つた沢山の従者が続くシーンは、この劇場でなければ見られないものであろう。

東部にも野外劇場は沢山あるが、そのうち夏向きの劇場を拾つて見ると、カンサス・シテイのスターライト劇場、ニューヨーク、ジヨンビーチのマリンスタジアムがある。そのうちジヨンビーチのマリンスタジアム(写真参照)を紹介しよう。この劇場は、ハリウッドの劇場が山にかこまれたのに対し、海にかこまれている。水上とそのバツクのステージをつかつてスペクタークルなシヨウを展開して最も夏向きである。収容人員は八千名。



照

明設備は、先づフロントライトは、3kwのダイナビームスポットライト、288台。プロセニウムライト、1.5kwスポットライト、18台。ステージタワー、1.5kwスポットライト、46台。ステージサイド、1kwキロススポットライト、12台。それにダイザイングタワー、フットライト（共に150W）は全部ラウンデル型色ガラス（4色）を使用している。

以上の劇場で注目すべき事は、フロントライトが各劇場共殆ど二キロ、三キロのスポットライトである事とマリスタジアムのフロントライトの数である。今このマリスタジアムのフロントライトだけのスポットライトを日本の金額に直すと、ダイナビームスポットライト一台約18万円なので合計約五千万円となる設備である。

フロントライトの増加及高燭電球の使用は、フロントライトの重要性と共に、今後日本でも緊急に考慮しなければならない問題だと思ふ。

前記ダイナビームとはどんなスポットライトか記してみよう。

◎ダイナビーム・スポットライト

- ・メーカー クリーグル会社 ・レンズ ステツプレズ（14 $\frac{1}{2}$ リ）
- ・反射面 エリプソイダル反射面（アルザツクアルミニウム使用）
- ・電球 3kw, 115V 100時間寿命（バイポストベース）
- ・大きさ（前頁図面参照）



再び
劇場建築設計家に

篠 木 佐 夫

劇場の建築設計が行われる場合に舞台照明設備特に舞台機棚が、もつと様々な形式の演劇舞踊などに適するように、また多角的な機能を發揮しうるよう考慮が払われて欲しいことを、大分前の東京新聞の「うの目たかの目」欄に書いたことがある。しかし、その後、数年間に幾つかの劇場ホールが出来上つたが、決して我々を満足させる設備機棚は少く、むしろ後退した所さえある。これも止むを得ない犯しがたき理由によるものならばとにかく、そうではなく単に建築家の趣味的な意図からで、劇場として不具に等しいものにされてしまうことが残念なのである。

舞台照明は、演じられる劇の戯曲の主

題、演出のプランによつて要求される目的に、常に協力しなければならぬのであるから照明設備機棚は、特定に固定されることなく、或る劇場の演出に従つて随時に併も簡易に照明器具を設備取付け出来る機棚が最も望ましい。つまり、生半可な設備機棚よりも、むしろ何にも無い方が良くいと極言したくもなる。そんな場合には、我々照明に従事する者は、その劇を何んとか良くしようとする良心的な協力をいとうことなく、照明効果をあげるため努力するであらう。しかし、こんな煩わしい仕事も優秀な舞台機棚が完備されていさえすれば、不必要となり、その無駄な努力が、もつと積極的に照明効果を上げる方へ向けられるのである。

最後に劇場建築設計課に望むことは、舞台設計を最

望 要 する 対

も重点的考へ、そして、實際家の良きアドバイスを尊重して欲しい。單に、現在ある他の劇場を参考にする場合も、それについて、深い理(ことわり)と工(たくむ)の精神を十二分に生かし、演劇をする場としての、職能的な建築物を要求するものである。

これからの劇場に望む

小 川 昇

もしこれから新しく劇場を建てるような計画があるなら……。

先づ第一に望みたいこと、全体として、いわゆる表と裏の占める割合を、従来のように表にのみ片寄ることを止めてもらいたい。広さだけについても、(今

各劇場の表と裏の面積比率を具体的に示すことの出来ないのは残念である。)今まではあまりに座席数のみを考えすぎてはいないか。あの劇場は何人入れるかというところが劇場の価値を決定するように考へてはいないか。これからは、定員の問題も裏のスペースを十分に考へた後で決めてもらいたい。なぜ何処の劇場でも舞台の狭さに苦勞しなければならぬのか。図面の上ではある程度の広さがあるように見える。然し実際には空いている筈の所はすべて様々のもので塞ぎつているのが現場である。甚だしいのは、装置の

道具の置場もなく、無理につめ込んだ道具の為に俳優の登場にも差支えるような舞台さえある。又現在の劇場のほとんどが舞台の奥行が足りない。だから廻り舞台とホリゾントとの併用がうまく行かない。それは廻り舞台とホリゾントとの間に装置や照明の工夫をするスペースが無い為である。舞台の間口だけが広いという事は決して自慢になる事ではない。其の他舞台のフトコロが狭いことなどすべて舞台の狭くなる原因は主に客席の優略に依ることが多いのである。だから定員を多くする為には裏のスペースもそれに比例して広くしなければならぬことにしてもらいたいのである。

第二に諸設備の点でも裏と表に対する考へ方をもう少し変えてもらいたい。客席や廊下が立派であることは誠に結構なこと、殊にシートの座り心地の良し悪しなどは観劇の気分が大いに影響するものであるから、此等の点には十分留意してお金も十分に掛けてもらいたいものだが、それを良くする為に裏の設備をケツルことは止めてもらいたい。然し、限られた経費でどちらにするかという時に、我々としてはやつぱり裏に重点を置いてもらいたいと思うのである。その方が顧客に対して親切であると我々は考へるのである。楽屋の点に關しても問題が多いと思う。ずいぶんひどい所もある。少し

大げさに云えば人道上の問題であらう。だが我々は今もつと身近なことに就いての希望を述べて見たい。

第三に、そして我々としては此れが最も身近かな問題で第一の希望なのであるが、照明設備のことである。先づ第一は光源の設置場所のことである。日本の昔の劇場には所謂照明設備は無かつた。窓から来る外光のみで芝居が出来たのである。然しだんだん照明の設備もしなければならなくなつたが舞台にその場所が無いので仕方なく出来るだけ邪魔にならないような場所に様々のものを取付けたのであらう。その後劇場は新しく出来ても舞台は昔のまゝに作られてしまふので照明設備も仕方なく昔のまゝの場所に取付けることになり、それがいつか照明設備の定位置のようなことになつてしまつて、現在でも因習のように残つてしまつたのだと思う。だから、照明設備の改良にはどうしても舞台設計の新しい考え方から出発しなければならぬ。新しい考えと云つても必ずしも特殊な舞台を作るということではなく、照明の操作や配光をもつと有効に使えるように設計すべきだと云うのである。照明設備が無くてもよかつた時代の舞台では照明設備は邪魔であつたかも知れないが、現代では照明設備の無い舞台というものは考えられないのであるから、初めの設計に照明設備

が十分考慮されなければならぬのに、

少くも出来上つたものを見れば、その考慮がはらわれたいものと思えない。

しかしここに一つの問題がある。それは現代の劇場で昔の照明設備の必要でなかつた時代のものが演ぜられてゐることである。そんな芝居を演る場合はそのような舞台でなくては都合が悪い。そのような舞台は現代の照明設備をするのに非常に都合悪く出来てゐるのである。そこで劇場を設計するに當つて、その劇場の使用目的を何処に重点を置くかということが考えられなければならない。演説会場として設計されたホールで芝居を演らうと云うのは初めから無理な計画である。歌舞伎を演るように設計された舞台でバレエやオペラを演ることも同様のことが云えるだらう。

今後の劇場に

これからは、劇場の専門化とでもいふようなことが出来て、劇場の外観内容共に上演種目にびつたりするようなもの設計された時に初めて照明設備も効果的に設計され、我々の夢も実現することであらう。いや、我々は只それを持つてゐるのではない。そんな劇場を作ることが我々の本當の使命であると考へるのである。

新しい劇場に欲しいもの

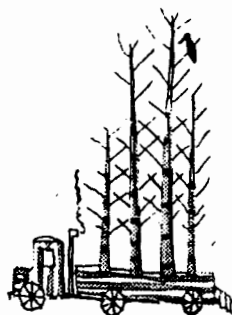
相馬 清 恒

現在の演劇、舞踊、オペラ等総べてのものは、各々の演出意図にもとずいた美術、照明、音楽効果に依つて構成され助けられて居るのだが、とかく劇場設計家の方達にはその中の舞台照明と云う重要な存在を忘れられていた様に思う。ことに吾々の切なる希望を是非々々聞いて貰いたいものである。先づ最大の難関であるのは照明室の位置のことである。

この事は吾々がルルのべるよりは先輩諸氏が何年となく言はれて来た事であるが、舞台全体を視野のもとに置ける位置、たとへば客席二階中央、あるいは二階客席上手、この場合も舞台全体を視野の元に置ける位置で有り操作盤は常に舞台を見ながら操作出来る位置に置く事は人員及変化による照明効果の大変なブラ

スである。舞台全体が大きくなければならぬ程吾々が考へる事であり、そうあつてほしいと希望する。

其の他もう一つ各劇場ホールには一部の建物以外は照明部員の休憩室なるものを設けられて居ない。これはなんとしてみても設けてもらいたい。時に依つては徹夜で仕込・稽古をする場合が多々有る。其の公演中ギツシリつまつた時間の中からもたとへ一時間でも三十分でも手足をのばせる部屋が有る事は仕事にたいしても大変プラスになる事である。そんな劇場が一つぐらゐる日本の中にあつても良いのではないだらうか。まだまだあると思ふが私見を二つばかり言わせて頂きます。



前号から始まつた堀孝三氏の「中国訪問公演のノート」から(2)は封面の都合で今回は休載させていただきます。

編集部

事務局通信

No. 4



- 会報第三号割付 六月十九日 於小川
照明研究所 梶、大野
- 会報第三号校正 六月廿三日 於小川
照明研究所 梶、大野
- 会報発送 於小川照明研究所 小林、
大野、東
- 事務局会議 七月十日 於小川照明研
究所 滝尾、小林、大野
- 常任理事会 七月十二日 於文明堂
出席者 小川、和田、滝尾
- 七月十六日 第三回総会開く
- 司会者天野万助氏により、定時をや
や遅れ九時五〇分開会
- 議長選出司会者氏名、全員賛成にて
秋山易三氏選出される。
- 出席者三十九名委任状六十七名にて

- 総会成立を確任。
- 一、理事長小川昇氏挨拶
- 二、昭和卅二年度決算報告―会計担当
齊藤政雄氏
- （天野氏より会費徴集状況の報告
既收一・二・〇〇〇円
未収一六二・〇〇〇円
- 一、昭和卅二年度経過報告 事務局滝
尾輝雄氏
- ◇篠木佐夫氏より決算報告に質問
- ◇遠山静雄氏より議事進行に対する
動議
- ◇議長より明細質問は、議題其の他
の件 の項にて検討される様要請
あり全員賛成。
- 一、昭和卅三年度予算説明 天野万助
氏。全員承認。
- 一、昭和卅三年度事業計画説明 滝尾
輝雄氏。
- 1 会報のこと
- 2 照度測定のこと
- 3 劇場、ホールプラン作成配布の
こと
- 4 テレビ仲継料のこと
全員承認。
- 一、其の他の件
- 1 大庭三郎氏よりの質問、昭和卅
二年度福利費に対する説明―
天野万助氏説明。
- 2 小川昇氏よりテレビ仲継料を見
込んだの会費五〇円に値下げ案
提案。

- 3 会費値下げに関する件
討議の末、票決により会費を当
分現状のまま一〇〇〇円に据置く
ことを決定する。
- 一、役員改選 事務局推薦により左記
の如く理事を選出承認する。
新理事事務局推薦（順序不同）
- 石川 鶴市 久保田 万太郎
- 手塚 喜好 小川 昇
- 和田 光弘 高橋 秀宣
- 山本 順三 石井 尚郎
- 松崎 国雄 吉本 一郎
- 前田 二郎 山下 俊弘
- 沼田 勝夫 原 英一
- 田中 恒雄 梶 孝三
- 滝尾 輝雄 二瓶 正吉
- 土村 昌 松浦 光次郎
- 相馬 清恒 高柴 正夫
- 篠原 久 立木 定彦
- 篠木 佐夫 中本 猛雄
- 齊藤 政雄 小林 君子
- 大庭 三郎 川崎 ひろし
- 秋山 易三 落合 勝造
- 天野 万助 柴山 睦郎
- 穴沢 喜美男 岩崎 令児
- 相原 誠一郎 今井 直次
- 上条 甲午 遠山 静雄
- 上野 虎雄 阿部 吉之助

舞台及テレビスタジオ照明機械器具
螢光灯調光装置
社交場各種照明装置
ミラーポール及電飾装置

設計製作

渋谷区伊達町63

株式会社 電 照 社

TAL (44) 9042

一、名譽會員制度設置に關する件

照明界に功勞があり、現役に非ざる人で、理事會により推挙された人を名譽會員にすることを決定し、規約の一部を追加する。

閉會十二時十五分

○事務局會議 七月十七日 於小川照明研究所 總會整理 出席者 川崎、根本、大野

○編集會議・事務局會議 七月廿四日 於小川照明研究所 齊藤、天野、梶、川崎、大野

○編集會議 七月卅一日 於小川照明研究所 滝尾、大野

○理事會 八月八日 於文明堂 出席者 篠原、沼田、前田、高橋、小川、和田、秋山、手塚、上条

今井、石川、篠木、大庭、相馬、穴次、滝尾、岩崎、齊藤、小林、松崎、立木、川崎

欠席連絡 田中

一、議長 滝尾輝雄選出

一、役員改選 理事互選に依り左記の如く新役員を決定する。

會長 久保田万太郎

理事長 小川 昇

常任理事 秋山易三、天野万助

穴次喜美男、今井直次、岩崎令児、大庭三郎、小林君子、齊藤政雄、篠原 久、篠木佐夫、相馬清恒、

田中恒雄、滝尾輝雄、沼田勝夫、

原 英一、松崎國雄、前田二郎、和田光弘(以上十八名)

監事 上野虎雄、遠山靜雄
名譽會員 神保道臣、上条甲午

事務局(局長) 穴次喜美男

相馬清恒、岩崎令児、田中恒雄、篠原久、原英一、今井直次、秋本道男

道男

經理局(局長) 齊藤政雄

小林君子、沼田勝夫、天野万助

出版局(局長) 大庭三郎

滝尾輝雄、川崎ひろし、大野洋、梶孝三、立木定彦、根本好章

企画局(局長) 篠木佐夫

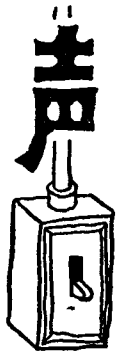
秋山易三、前田二郎、松崎國雄、和田光弘

和田光弘

○編集會議事務局會議 八月十三日 於小川照明研究所 第四号原稿整理外

出席者 小川、大庭、滝尾、相馬、立木、川崎、根本、大野

○編集會議 八月十五日 於小川照明研究所 川崎、根本、大野



小道具の灯入れの事

最近、舞台での本火使用が許可されな

いたため、勢い、行灯、その他の灯入れをよくするのですが、以前に灯入れしたものを、今日又灯入れ、と持つてこられるのはうんざりさせられます。

決して労力を惜しむわけではありませんが、灯入れをした、小道具はそのまま保管して、次に使う時にはどこでもすぐ使用出来る様に出来ないものでしょうか、以前のように本火が使用出来るのでしたらバラす事もあるでせうが、現在の状況ではその必要は先づないと思はれますので.....

協会から小道具その他に申入れて、一度仕込んだものは何時もそのまま使う事が出来る様合話をつけて頂きたいものです。

(井八八生)

遊びましょう

協会が出来てから二年たちました。會員相互の親しみを増すために、リクリエーションをなにか協会で作って下さいませんか。海へ行くもよし、キャンプもよし、野球のトーナメント(各プロック對抗など)等々、もよし、お酒を飲むのも又よし、どんなものでしょう。

(か)

営業所を大阪に開設いたしました
何卒東京同様御利用下さいませ

イースタン照明株式会社

東京営業所 東京都新宿区戸塚 3-74
(36) 0206 (368) 2402
大阪営業所 大阪市大淀区大仁西 1-20
(45) 5 8 6 5

編集部から

編集部は企画の一つとして、かねてから毎号の会報と共に、各劇場、貸ホールのプランを作製配布したいと考えていた所、今回その第一号として、丸茂電機株式会社様の御寄贈によつて、新改装の日比谷公会堂の思いがけぬ程立派なプランを皆様にお届け出来ることになりました。

今後は引き続き毎回一つか二つ位づつの劇場プランを発行したいと思つております。御期待下さい。

なお、誌上をもつて丸茂電機株式会社様の御好意に厚く御礼を申し上げます。

ニユース



○プランニング研究会開く

総会の席上会員諸氏にお知らせした大庭舞台美術研究所のプランニングの研究会が七月廿八日(二時)廿九日(六時)の二日に亘つて同研究所スタジオにて邦正美術舞踊団の協力で行われ盛会であつた。(詳しくは次号掲載)

○個展(絵画)

本紙のカットを担当している会員太田弘道君が左記に依り個展を開いた。
八月廿二・三日 東京電力銀座サード・センター、二階ギャラリー

○原水爆禁止世界大会参加

八月二十日原水爆禁止世界大会最終日、日比谷音楽堂に於て、各劇団、合唱団参加、千田是也演出で、原水爆禁止のシネプレコールが行はれた。これに我が舞台照明家協会も協力し、盛会であつた。

広島、長崎の悲劇は二度とくり返したくないものです。

劇場(照明)だより 八月(東京)

歌舞伎座 (新派)	新宿コマ劇場 (新国劇)	芸術座 (東宝現代劇)	俳優座劇場 (俳優座)	新橋演舞場 (上方歌舞伎)	東宝劇場 (宝塚歌劇)	東横ホール (民芸)	後楽園アイスパレス (日演プロ)	三越劇場 (こけし座)	(やまいも)	(東京少年)	松坂ホール (つみき座)	(新兒童劇団)	第一生命ホール (劇団四季)
海辺の家	コマ夏おどり	月高く人が死ぬ	ミンチエール・オークレン	群盗	プロードウエ	ポギーとベス	宝島	チボリーの冒険	チロリン村とクルミの木	天草四郎	海鳴太郎	コタンの口笛	ジークフリー
相馬 清恒	高田 東作	小川 昇	篠木 佐夫	滝沢 輝雄	今井 直次	穴次喜美男	原 英一	穴次喜美男	滝尾 輝雄	篠原 久	大野 洋	篠原 久	吉井 澄雄

▽会員消息△

○新入会員 一八五八月

- 板橋区栄町一六 葛生 輝夫 (第一生命ホール)
- 杉並区和田本町九五三 山崎 正喜 (第一生命ホール)

東京営業所

○新賛助会員

バグナル株式会社 港区田村町三の七 電(39)七六五一

○住所変更

- 半沢 良雄 板橋区志村中台町一六
- 阿部吉之助 渋谷区代々木西原九五七
- 金井 謙 横浜市港北区箕輪九八
- 上条 甲午 新宿区四ツ谷舟町五

川田 勝二 渋谷区山谷二二三 (伊藤方) スター照明社

▽訂正△

- 姓名 岩崎 冷児 は 岩崎 令児
- 所属変更 中野 雅充 フリーから草月会館

▽電話開通△

水木 芳生 (44) 四三五六
美月照明研究会 (35) 七五四六

聴交室



○求好敵手

篠木、穴次両研究所合同の野球チームがあります。当方一切の道具有リユニホームがある弱く自信のあるチームと一戦交ちたいものです。

両研究所の誰かにお申込み下さい。

○物置小屋

或は同程度の事務所。近環内都心に近い程可。条件面談。連絡は協会事務所 気付川崎まで

○求利用者

教育委員会発行の劇場・ホール施設一覽表と、謄写印刷器が有ります。……どうぞ。

協会連絡事務所(小川照明研究所)

会員相互の連絡、便宜を計る為此の欄を作り「聴交室」と名付けました。御利用下さい。(編集部)

編集部連名

- 大庭三郎(出版局長)
- 滝尾 輝雄 堀 孝三
- 立木 定弘 川崎ひろし
- 根本 好章 大野 洋



賛助会員

✓丸茂電機株式会社

千代田区神田須田町一の二四
電(25)〇三二一

✓日比谷サーピステーション

千代田区内幸町日比谷公会堂内
電(59)四〇〇〇

✓松村電機製作所

文京区根津富永町二二
電(82)六一六一

近藤電機工業株式会社

世田谷区経堂一の一三
四電(42)二〇九六・九六一九

✓イースタン照明社

新宿区戸塚町三の七四
電(36)〇二〇九 (368)二四〇三

✓電照社

渋谷区伊達町六三
電(44)六七八二・九〇四二

✓竜電社

港区芝新堀四の六
電(43)七九〇八・六二五九・六二四三

✓バクナル株式会社

港区芝田村町三の七
電(59)七六五一

編集後記

暦の上ではとつと立秋の声を聞いたのに、暑さの方向は一向におかまもなく、新しく出版局長になつた大庭氏他六名の編集部員を流れる汗に悩まされています。

一年中季節に關係なく温度の高い所に働く我々ですが、せめて会報位多少なりとも季節感をと、今回はアメリカの野外劇場紹介などを入れてみました。

近づく秋と共に、会員諸氏もいよいよ忙しくなることと思ひます。会報発行も漸く軌道に乗りかかつて来ました。二号から続いた座談会も今回で一応完結し、編集部の新プランもあれこれと想を練つて居りますが、今後一層の御協力をお願い致します。

— 編集子 —

舞台照明家協会 会報 第四号

昭和三十三年八月二十五日発行
発行所 舞台照明家協会

中央区築地四の二
電話 5485 八五二八
(日本演劇協会内)

編輯人 大庭三郎
発行人 小川昇
印刷所 福寿堂印刷所

台東区御徒町三の六
電話 2778